

平成30年4月26日

報道関係者各位

公益社団法人マナーキッズ®プロジェクト



「第14回文部科学大臣杯マナーキッズショートテニス全国小学生団体戦」開催の件

公益社団法人マナーキッズプロジェクトは、全国各地でマナーキッズ教室を展開しており、既に累計で国内47都道府県及び台湾において、290,000人を超える幼稚園園児・小学校児童が参加しております。

マナーキッズプロジェクトは、子供達に、専門家による挨拶、礼儀作法の基本的マナーの習得、スポーツマンシップの体得、文武両道で世界に通用する背骨ある人材育成も視野に入れております。また、年々進む子供の体力・運動能力の低下に歯止めをかけるとともに、運動で知性を育むことをも念頭に置いております。

このプロジェクトの一環として「第14回文部科学大臣杯マナーキッズショートテニス全国小学生団体戦」を下記の要領で開催致します。

なお、第11回大会において初めて、プレー&ステイプログラム（国際テニス連盟が開発したキッズ向けの指導法です。キッズの年齢にあわせたラケットと適正なボール、コートサイズを世界標準で定めることで、よりスムーズにレベルアップすることができます）のステージ3のレッドを準用し、ボールは通常のテニスボールの75%減の飛びのレッドボールを実験的に使用しましたが、第14回大会においても、昨年同様とします。

記

- 1 開催期日：平成30年12月22日（土）低学年対象
9時30分開会式、9時45分試合開始（8時45分受付開始）、
試合終了後低学年表彰式
平成30年12月23日（日）高学年対象
9時15分開会式、9時30分試合開始（8時30分受付開始）、
試合終了後高学年表彰式
- 2 主催：公益社団法人マナーキッズプロジェクト
- 3 後援：スポーツ庁 東京都教育委員会 墨田区教育委員会、読売新聞社、NHK、
公益財団法人日本体育協会日本スポーツ少年団 公益財団法人日本オリンピック委員会、公益財団法人日本テニス協会 公益財団法人日本ソフトテニス連盟、一般社団法人東京都テニス協会
本大会は、独立行政法人日本スポーツ振興センター「スポーツ振興くじ助成事業」です。

- 4 協 力：小笠原流礼法 鈴木万亀子総師範 公益社団法人日本テニス事業協会
公益社団法人日本プロテニス協会 NPO法人日本シニアテニス連盟
日本女子テニス連盟
- 5 開催場所：東京都墨田区総合体育館
東京都墨田区錦糸 4-15-1 錦糸公園内 電話 03-3623-7273)
電車 JR総武線、地下鉄半蔵門線錦糸町駅北口より徒歩3分
- 6 参加対象：小学校1年生～6年生、なお、同じ都道府県内の異なる小学校児童とチーム編成が可能です。
- 7 競技方法：小学校・総合型地域スポーツクラブ・NPOスポーツ団体・スポーツ少年団別、各学年別・男女別団体対抗戦（特定の学年だけに限定して参加することを認めます）及び低学年の部、高学年の部団体対抗戦
なお、同一学年でチーム編成が困難な場合は、例えば2年生が3年生と組んで3年生の部としてチーム編成することが可能です。
- 8 チーム編成：各学年 単2、複1（単、複重複出場可）、1チーム 2名～6名。
- 9 参加チーム数：高学年男子24チーム、女子24チーム以内（原則）
低学年男子16チーム、女子16チーム以内（原則）
学年毎の参加申込数が上記チームを越える場合は、同一小学校・総合型地域スポーツクラブ・NPOスポーツ団体・スポーツ少年団チームを優先の上、抽選により参加チームを決定します。地域、都道府県によっては予選を行うことがあります。
なお、2名以上のチーム編成が困難な場合は、1人の申込も受け付けます。同じ都道府県で1名申込者を紹介しますので、連絡を取り合いチームとして申し込んで下さい。
- 11 遠隔地参加チームの遠征費補助：
関東地区以外からの参加チームに対し、各都道府県1チームに限り、選手遠征費（交通費及び宿泊費）の一部を補助することがありますので、大会事務局に相談して下さい。
- 12 試合方法：
(1) コートサイズ 6.1m×11.88m
(2) ネット 高さは中央部で83cm、支柱（サイドポスト）で85cm
（低学年は中央部で80cm）
(3) 得点 9点先取（8対8になった場合は次のポイントで勝負を決めます。）、
コンソレーションは、7点先取とします。
なお、試合が15分以内で決着がつかない場合は、15分経過時点におけるポイント数が多いチームの勝利とします。

(4) エンドチェンジ

シングルス、ダブルスともエンドチェンジは行いません。その代わりに、チーム同士の挨拶の後、ジャンケンをし、勝ったチームは、どちらのサイドで試合をするかを選べます。

(5) サービス

- ・サービスは相手コートのネットとネットから 3.3m 離れたサービスライン内の対角線半分に落とします。(第 12 回大会に比べて 20cm 短縮)
- ・適切な領域内に落とせなかったサービスの場合、2 回目のサービスを行えますが、これも失敗すればサーバーが得点を失います。
- ・サービスはベースライン後方から行って、右の場所から左の順になります。
- ・サービスはオーバーハンドまたはアンダーハンドで行えますが、ボールを打つ前にバウンドすることは許されません。ただし、1 年生のサービスはボールをベースラインの外側で一旦バウンドさせて打つことができます。
- ・サービスしたボールは一度バウンドさせてから打たなくてはなりません。もし、レシーバーがボールをバウンドしないうちに打つとレシーバーは得点を失います。
- ・サービスはプレーヤー同士 2 点ごとに交代して行います。
- ・サービスしたボールがネットにあたって相手のサービスエリアに落ちたならば、もう一度サービスを行うことができます。

(6) プレー

- ・サービスを受ける時以外、プレーの間、競技者はボールのバウンドする前後に打つことができます。

(7) ダブルス

- ・4 人の競技者は順番に 2 点ごとのサービスを行う時を除いて、全てシングルスと同じ規則となります。すなわち、最初の 2 点をサービスするパートナーは 5 点、6 点目にサービスすることになります。

(8) 審判

セルフジャッジです。審判はロービングアンパイヤ方式ですので以降「審判」は「ロービングアンパイヤ」のことを指しています。審判は、試合中は何か問題のある時以外は見守るだけです。次の要領で進めて下さい。

- ① 試合開始にあたっては、まず試合の順番を掲示した OP ボードのスタッフから試合結果記入用紙を受け取ってください。(早く取りにきたチームにお渡しします) 各チーム監督或いは監督代行(保護者可)は選手にチームネームプレートとオーダー票を持たせて自チームを選手控え場所に誘導して下さい。試合コートの中の試合が終わったら選手を試合コートに送り出してください。審判が挨拶と注意事項の説明(プレマツチミーティング)を行います。その後は選手が自主的に試合を進めます。

- ② 自分のコートに飛んできたボールのセーフ、アウトは自分で判定しアウトの時は大きな声で手を上げて「アウト」と言います。相手はそれを確認して手を上げます。
- ③ サーバーはサーブを打つ前に大きな声でカウントを言う。レシーバーはそのカウントを確認したら手を上げます。サーバーは相手が手を上げるのを確認してからサーブします。
- ④ スコアボードは1ポイント毎に選手もしくは控えの選手がめくります。
各試合終了時、結果記録用紙にスコアを記入し、お互い確認します。
全試合終了したら手を上げて近くの審判を呼び、勝敗を全員で確認してから挨拶をして退場します。

13 使用球：

プレー&ステイのステージ3のレッドボール。(低学年はヨネックス、高学年はスリクソン)

14 使用ラケット：

マイラケット使用可(但し26インチ以下に限定)

大会本部で用意するラケット使用可。(26インチラケットを用意)

15 順位決定方法：

- ・各学年別・男女別、小学校・総合型地域スポーツクラブ・NPOスポーツ団体・スポーツ少年団別団体対抗戦

各学年別にトーナメント方式により試合を行い優勝、準優勝、3位チームを決定します。但し、チーム数により、リーグ戦(総当たり)方式とすることがあります。

併せて、各学年別・男女別団体対抗戦の成績を次によりポイント換算し、その合計点により、低学年の部(1～3年)、高学年の部(4年～6年)の総合優勝、総合準優勝、総合3位チームを決定します。なお、同点のチームが複数あった場合は、直接対戦で勝ちが多いチーム、勝ち数と同じ或いは、直接対戦が無かった場合は、両チームのエース同士のシングルスを行い、勝者のチームを優勝とします。その他、複雑なケースが起った場合は、大会本部で検討の上、順位を決定することがあります。

文部科学大臣賞を交付する者及びその数は次の通りです。

賞状：高学年の部(4年～6年)総合優勝 男子1チーム及び女子1チーム

低学年の部(1年～3年)総合優勝 男子1チーム及び女子1チーム

大臣杯：高学年の部(4年～6年)総合優勝 男子1チーム及び女子1チーム

低学年の部(1年～3年)総合優勝 男子1チーム及び女子1チーム

優勝	準優勝	ベスト4	ベスト8	ベスト16	ベスト32
100	70	50	35	25	18

- ・コンソレーション

トーナメントで1回戦負け、2回戦負け等の敗退チームについては、コンソレーシ

ヨン試合を行います。時間の関係で全ての試合は出来ない事があります。

16 マナーキッズ大使の選考：

大会参加者の中からマナーキッズ大使を選考し、次の通り海外に派遣します。(予定)

(1) 派遣時期：豪州 平成32年1月中旬～1月下旬(予定)

台湾 平成31年8月(予定)

(2) 派遣先：豪州 全豪オープンテニス(予定)

台湾 台北市(予定)

(3) 派遣人員：男女若干名(高学年の部から選出)

(4) 選考基準：試合結果・マナー・感想文・面接等を基準に入れ、マナーキッズ大使候補を主催者が選考します。墨田区で月1回、開催している「マナーキッズ大使」を目指すプロジェクトにおいて茶道、華道、折紙他の習得状況を勘案し、マナーキッズ大使を選考します。

(5) 事前研修：マナーキッズ大使としてふさわしい行動、言動がとれるよう平成31年大使派遣前に千葉県柏市吉田記念テニス研修センターにおいて事前研修を行ないます。保護者も必ず事前研修に参加して下さい。選手及び保護者が事前研修に参加できない場合は、マナーキッズ大使対象外となりますのでご留意下さい。

(6) 内容：豪州及び台湾の子供達に日本の茶道、華道、折紙等の日本の伝統文化を紹介すること等を通じ、豪州及び台湾の子供達と交流します。

(7) 日程：数日間

17 参加費：1人 2,500円。

18 応募方法

応募方法が、前回大会から、次の通り変わっておりますので、ご留意下さい。

参加を希望されるチームは、公益社団法人マナーキッズプロジェクトホームページ「参加したい」をクリック、「第14回文部科学大臣杯マナーキッズショートテニス全国小学生団体戦」参加申込用紙をダウンロード、これに必要事項を入力し、office365@mannerkids.or.jpまでメールで、9月14日(金)必着でお申込み下さい。参加申込用紙の文字がプログラムに記載されますので、選手氏名は必ず参加選手本人に文字を確認して下さい。

参加の可否を追って、メールで連絡します。

19 問い合わせ先

公益社団法人マナーキッズプロジェクト「第14回文部科学大臣杯マナーキッズショートテニス全国小学生団体戦」事務局

電話 03-3339-6535 080-5470-6951 FAX 03-6426-1580

Email office365@mannerkids.or.jp

URL:<http://www.mannerkids.or.jp/>